

続・ふるさと こぼれ話

祖母井の代町薬師

第29回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028(677)2525

4月号の本欄で分譲宅地「薬師の郷」の由来は代町薬師と紹介した。祖母井の代町薬師由緒について、明治10年代にまとめられた『芳賀郡仏堂明細帳（芳賀町史報告「祖母井の民俗」）に記載がある。それによると本尊は、薬師如来。天正年中（1573〜92）に、祖母井信濃守が建立。本尊は春日の作と伝わる。元和二年（1616）、大田原藩領となる。承応二年（1654）の祖母井検地帳にもその存在が確認されて。お堂の間口は3間、奥行3間。境内198坪である。薬師の縁日は8日、12日とされるが、4月8日の仏生会に灌仏の甘茶を

もらい、目を洗うと眼病が治るといわれているので、代町薬師も眼病にご利益があるとされているのだろう。

代町薬師の縁日・お祭りは、3月12日と8月12日に行われる。縁日には、薬師堂の前に白地に黒の「薬師瑠璃光如来」の大きな幟が立てられ、「め」と書いた絵馬が奉納される。

夕方4時ごろ祭りが始まり、はじめに念仏講の女性15人が大きな数珠を回しながら百万遍念仏を唱える。つぎに祖母井高宗寺の富樫良弘導師の読経がある。お供え餅を小さな



▲代町薬師に奉納された絵馬

短冊状に切り、半紙に包んでお参りする人に配られる。お参りが一段落すると、お堂の中で漬物や煮物、饅頭、御神酒で直会が行われる。12月号では、「薬師」のつく地名が給部と東高橋にあるので、その地を訪ねる。

編集後記

□うつつどうし梅雨がダラダラと続きました。大好きな夏が短くなってしまう、ちよつと損をしたような気分になつてしまふのは私だけでしょうか？ □でも、そんな気持ちと裏腹に、いつの頃から「暑い、だるい」なんて素直に夏を感じられなくなつてしまった気がします。子どもの頃は、虫とりや魚とり、暑くても暑いなりに楽しんでいたので… □季節感を大切に、夏を否定的にとらえてしまわないよう。冷や汗ではなく、いい汗をたくさんかいてみたいものです。 「今年は夏を満喫するぞっ！」

(ヒシ)



Muscicapa griseisticta



スズメくらいの大きさの旅鳥で、春と秋の通過の途中で見かける。特に秋には多く観察される。

公園や林の縁部などのやや開けた場所が好みて、飛び出した枝や電線、テレビのアンテナなどに直立した姿勢で留っていたり、ミズキの実やたい肥置き場の上でハエをフライングキャッチしたりする。

灰褐色の地味な鳥で、目の周りが白く、メガネをかけているように見える。顔はメジロの色ではないかと思われるほどである。しかし、腹部の色彩はのど元から腹にかけて全体が白く、灰褐色の縦斑模様様が鮮明に現れているのでヒタキ類と納得する。

鳴き声は、ツィーと小さく鳴き、さえずりは複雑である。秋に幼鳥を連れて東南アジア方面に帰るが、コサメビタキ・サメビタキ・オオルリ・キビタキの雌や幼鳥とよく似ている。正面の腹部の色彩が判定のポイントとなるのでよく見てみよう。

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル
☎0120(753)898

☞芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

